

◇ 行政視察報告書 ◇

《提出者氏名》 松尾 武治

委員会名	新庁舎建設等特別委員会	
委員名	[委員長] 松尾 武治	[委員] 谷尻 昌史
	[副委員長] 平野 清久	[委員] 平田 聖治
	[委員] 西村 好高	[委員] 八木 信樹
	[委員] 鞆岡 誠	[委員] 山下 秋則
	[委員] 木村 裕	
視察先	岐阜県 恵那市	岐阜県 中津川市
視察日	令和元年11月20日(水)	令和元年11月21日(木)
視察時間	午後1時30分～午後3時00分	午前10時00分～午前11時30分
調査事項	・庁舎整備の内容について (恵那市役所 西庁舎)	・庁舎整備の内容について (中津川市役所 耐震改修工事)
行政視察を終えて	<p>庁舎整備の検討経緯、新築工事の概要、総事業費と財源、市民からの反響について伺いました。</p> <p>第二庁舎の老朽化から、分散している庁舎の集約、来庁者の駐車場を確保するために、西庁舎の建設に踏み切ったといわれていた。</p> <p>総合振興計画後期計画に庁舎建設を位置づけ事業を進めたと説明があった。概要は図面で説明を受け、建設費については、総事業費が13億8,565万円で内11億4,644万円が工事請負費となっている。地域の元気臨時交付金3億7,350万円と合併特例債が主な財源となっている。</p> <p>市民から子供を遊ばせるコーナーが欲しいとの声もあり憩いスペースを設け自販機の設置と子供スペースを設置した。</p> <p>少ない財源で、ワンストップの窓口、見渡せる事務所、低いカウンターなどの設置が参考になった。</p>	<p>耐震改修については、総事業費8億4,177万円 国補助金2億125万円 合併特例債6億2,260万円残りは一財でおこなわれていた。</p> <p>工事の設計が優れていたため再度の視察となったが美観を重視した補強材の使い方、筋交いの鋼材と補強壁の組み合わせも設計者の能力が伺える。本市も、耐震設計の段階から美観と動線を考えたものになっているか吟味することが重要である。</p> <p>財源の「住宅・建築物安全ストック形成事業補助金」は補助率が三分の一、要安全確認計画構造物の指定を受けると五分の二にかさ上げされるもので、参考になった。</p> <p>市が公の施設を売却したクアリリゾート湯舟沢を見ることができ、今後の市の取組の参考になった。</p> <p>今回の行政視察は、担当課との合同視察で計画をしたが、結果的に議会と市長部局が同じものを見て、それぞれの立場で研修することがより良い施策に繋がると感じた。</p>

◇ 行政視察報告書 ◇

《提出者氏名》 平野 清久

委員会名	新庁舎建設等特別委員会	
委員名	[委員長] 松尾 武治	[委員] 谷尻 昌史
	[副委員長] 平野 清久	[委員] 平田 聖治
	[委員] 西村 好高	[委員] 八木 信樹
	[委員] 鞆岡 誠	[委員] 山下 秋則
	[委員] 木村 裕	
視察先	岐阜県 恵那市	岐阜県 中津川市
視察日	令和元年11月20日(水)	令和元年11月21日(木)
視察時間	午後1時30分～午後3時00分	午前10時00分～午前11時30分
調査事項	・庁舎整備の内容について (恵那市役所 西庁舎)	・庁舎整備の内容について (中津川市役所 耐震改修工事)
行政視察を終えて	<p>恵那市は、面積504.24平方メートル、人口49,894人の豊かな自然に恵まれた地域である。</p> <p>庁舎整備は、第二庁舎の老朽化、分散している庁舎の集約、来庁駐車場の確保を目的に平成25年に着工し、総事業費13億8565万円で西庁舎が2ケ年で新築されました。</p> <p>西庁舎は、防災拠点と高い耐震性を備え、ワンフロアで全ての手続き出来る配置がされ、市民の利便性が図られている。本庁舎との一体利用で西庁舎が整備され、格安な事業費で新築された事例として大いに参考となるものであった。</p>	<p>中津川市は、面積676.45平方メートル、人口78,544人の市である。</p> <p>庁舎耐震改修は、昭和47年建築の本庁舎が耐震基準を満たしておらず、防災拠点としての機能確保と行政機能の継続性を確保するため、改修工事が実施された。</p> <p>平成23年度に庁舎検討委員会が設置され、平成26年度に必要最小限の改修を計画する事で方針決定をし、平成28・29年度に総事業費878,270千円で耐震化を行った。今後20年程度使える事や、リニアに伴う新たなまちづくりのために最小限の改修であったが、見た目や機能性の向上には繋がっていないと感じた。</p>

◇ 行政視察報告書 ◇

《提出者氏名》 西村 好高

委員会名	新庁舎建設等特別委員会	
委員名	[委員長] 松尾 武治	[委員] 谷尻 昌史
	[副委員長] 平野 清久	[委員] 平田 聖治
	[委員] 西村 好高	[委員] 八木 信樹
	[委員] 鞆岡 誠	[委員] 山下 秋則
	[委員] 木村 裕	
視察先	岐阜県 恵那市	岐阜県 中津川市
視察日	令和元年11月20日(水)	令和元年11月21日(木)
視察時間	午後1時30分～午後3時00分	午前10時00分～午前11時30分
調査事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・庁舎整備の内容について(恵那市役所 西庁舎)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・庁舎整備の内容について(中津川市役所 耐震改修工事)</li> </ul>
行政視察を終えて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民目線での庁舎の在り方をよく考慮されていた。具体的には、市民の利用頻度が高い、市民課や福祉関係の窓口を新庁舎の1階に配置し、環境の良い新庁舎2階にも子育て関係の窓口を集約していた。逆に業者の利用度頻度が高い産業系の窓口は旧庁舎に配置されており、参考にすべきであると感じた。</li> <li>・建物仕様や規模からすると、相当安価に建築されていた。資材価格等の時代背景があると思料するが、資材や人件費が高騰する現況では、そのあたりを考慮した予算とする必要がある。</li> <li>・市民が駐車場を利用するために、職員は近隣の有料駐車場を個人負担で借りているとの事であった。本市においては公共交通機関での通勤が難しいものの、市民の皆さんから職員の駐車場に関する問い合わせもあったことから、今後調査研究する必要があると感じた。</li> <li>・新庁舎建築に当たり、将来的な財政面の検討もされていた。有利な起債や交付金も利用され、参考になった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来的にリニア新幹線の駅が中津川市にできる事から、中心地がリニア駅周辺に変わっていくことを考慮して、耐震化を選択されたとの事であった。耐震は暫定的な庁舎の形であり、将来を見据えた評価すべき判断であった。</li> <li>・仮庁舎を建築するとそれだけで費用が嵩むことから、未工事部分に執務スペースを移動しながら工事を行っていた。事業費を抑える努力と施工業者との連携が図れており、参考になった。</li> <li>・恵那市と同様に、有利な起債と共に国庫補助を上手く利用されていた。国や府の補助金確保のために、職員だけでなく、議員も含めてアンテナを張る必要がある。</li> <li>・耐震工事をする建物の躯体が、設計通りにできているとは限らない事象があったようだ。そのような箇所は耐震設計とは別に追加工事が必要となり、想定外の事業費の発生や、工事を止める事が出来ない所以对応力も必要である。</li> </ul>

◇ 行政視察報告書 ◇

《提出者氏名》 鞆岡 誠

委員会名	新庁舎建設等特別委員会	
委員名	[委員長] 松尾 武治	[委員] 谷尻 昌史
	[副委員長] 平野 清久	[委員] 平田 聖治
	[委員] 西村 好高	[委員] 八木 信樹
	[委員] 鞆岡 誠	[委員] 山下 秋則
	[委員] 木村 裕	
視察先	岐阜県 恵那市	岐阜県 中津川市
視察日	令和元年11月20日(水)	令和元年11月21日(木)
視察時間	午後1時30分～午後3時00分	午前10時00分～午前11時30分
調査事項	・庁舎整備の内容について (恵那市役所 西庁舎)	・庁舎整備の内容について (中津川市役所 耐震改修工事)
行政視察を終えて	<p>●恵那市では老朽化した第二庁舎を解体撤去することと合わせ、敷地内のいくつかの小規模建物を整理して不足していた駐車スペースを確保するとともに、本庁舎に渡り廊下で連結する西庁舎(新庁舎)を建設して執務スペースを確保した。</p> <p>●新庁舎は建築年次の古い本庁舎と各階のフロアレベルを合わせて渡り廊下で連結したため、若干執務室の天井が低いものの、執務室のレイアウトの工夫やオープンなつくりから狭さを感じさせないものであった。</p> <p>●本庁舎と新庁舎の連結に関して法令上の苦勞があったが、県との綿密な協議により解決できたとのことで、担当者の苦勞と熱意に頭が下がる思いがした。</p> <p>●本庁舎玄関前の自動車の動線が工夫されており、安全やスムーズな運行に寄与している。</p> <p>●合併や市域の条件が本市に似ているが、財政状況が大きく異なる点には留意が必要であると思う。</p>	<p>●中津川市では、昭和47年建築の本庁舎(建築後47年経過)について、新築か改修かの議論を重ねた結果、耐震改修とトイレや床、壁の最小限の改修を選択した。</p> <p>●新築ではなく改修を選択した理由として「20年程度使用可能なこと」、「大型事業が集中すること」、「庁舎に対する考え方が変わる可能性があること」を挙げている。</p> <p>●耐震ブレースを見学したが、思いのほか圧迫感等もなく、執務に対する影響も感じられないものであった。また、壁や天井、窓の改修で古い建物であっても瀟洒で清潔感のある仕上がりになっている。</p> <p>●総事業費は9億円弱であり、コストパフォーマンスの高い手法であると思う。</p> <p>●施工中も仮設庁舎は建設せず、玉突き式の執務室移転を繰り返す全庁的協力で工事を終えている。</p> <p>★事業手法、選択理由、総事業費とも本市の庁舎問題の課題解決におおいに参考になるのではないかと思う。</p>

◇ 行政視察報告書 ◇

《提出者氏名》 木村 裕

委員会名	新庁舎建設等特別委員会	
委員名	[委員長] 松尾 武治	[委員] 谷尻 昌史
	[副委員長] 平野 清久	[委員] 平田 聖治
	[委員] 西村 好高	[委員] 八木 信樹
	[委員] 鞆岡 誠	[委員] 山下 秋則
	[委員] 木村 裕	
視察先	岐阜県 恵那市	岐阜県 中津川市
視察日	令和元年11月20日(水)	令和元年11月21日(木)
視察時間	午後1時30分～午後3時00分	午前10時00分～午前11時30分
調査事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>庁舎整備の内容について(恵那市役所 西庁舎)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>庁舎整備の内容について(中津川市役所 耐震改修工事)</li> </ul>
行政視察を終えて	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存の本庁舎は、平成18年に耐震化工事を3億6千万円で実施済。(RC造、4階、延べ床面積4018㎡)</li> <li>新庁舎(西庁舎)建設により、保健センターを撤去し、駐車場面積を拡大。153台→259台 職員駐車場は、自宅から2km以上の者に限り、周辺に別途駐車場を確保。</li> <li>新庁舎の総事業費13億85百万円。(S造、4階、延べ床面積3605㎡)</li> <li>本庁舎と西庁舎をつなぐ渡り廊下も、建築確認を得るため、別途建築物として建造している。各階の渡り廊下の床面はフラットだが、天井高は両庁舎で若干の差異があった。</li> <li>本庁舎は、フロアの中央(東西)に通路兼受付カウンターを設けている。通路幅は4メートル、執務室は通路を挟んで北側及び南側に配置され、奥行きは約6メートル。執務室の間仕切りはない。</li> <li>各課に番号を振り、番号と課名が表示されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>築47年、RC造、5階建て。延べ床面積5759㎡。</li> <li>庁舎が分散化しており、新庁舎建設案もあったが、2027年のリニア新幹線中津川駅が設置される予定で、それに関連する事業等を見すえ、耐震化案で施工。</li> <li>耐震化により、今後20年程度庁舎仕様が可能と見込んでいる。</li> <li>28、29年の2カ年で施工し、執務スペースは、玉突きで施工箇所を確保。</li> <li>筋交いの設置により耐震化を図っていたが、1階の来客が多い箇所では、筋交いでなく格子状の補強材で対応していた。</li> <li>筋交いの設置が出来ない箇所は、建物外部に柱を立て、梁を渡して補強(コンクリート補強壁)。ピロティ風を使用していた。</li> <li>総事業費8億78百万円。</li> <li>2階以上はフロア中央(南北)に通路兼受付カウンターを設置。通路幅は約3.3メートル。執務室は通路を挟んで東側及び南側に配置され、奥行きは約7メートル。</li> </ul>

◇ 行政視察報告書 ◇

《提出者氏名》 谷尻 昌史

委員会名	新庁舎建設等特別委員会	
委員名	[委員長] 松尾 武治	[委員] 谷尻 昌史
	[副委員長] 平野 清久	[委員] 平田 聖治
	[委員] 西村 好高	[委員] 八木 信樹
	[委員] 鞆岡 誠	[委員] 山下 秋則
	[委員] 木村 裕	
視察先	岐阜県 恵那市	岐阜県 中津川市
視察日	令和元年11月20日(水)	令和元年11月21日(木)
視察時間	午後1時30分～午後3時00分	午前10時00分～午前11時30分
調査事項	・庁舎整備の内容について (恵那市役所 西庁舎)	・庁舎整備の内容について (中津川市役所 耐震改修工事)
行政視察を終えて	<p>恵那市は岐阜県南東部に位置し、愛知県と長野県に隣接するまち。平成16年に1市5町村が合併し誕生、人口は約4万9千人。平成18年から、老朽化した第2庁舎の建て替えを検討。東日本大震災を機に、分散する部署の集約や慢性的な駐車場不足の解消などの課題解決と併せ、急ピッチで建て替え工事を進められた。総工費は約13億8500万円で、25年10月から1年間で完成。コンパクトなイメージながら、執務スペース、本庁舎との接続や動線などがうまく配置されていた。また、25年当時の工事費用であるが、低コストで庁舎整備を実現されている点も、今後の参考とした。</p>	<p>中津川市は平成17年に長野県木曾郡山口村との越県合併をはじめ、7町村が合併して誕生、人口は約7万8千人。リニア駅が設置されることから、企業誘致や移住・定住促進など地域の活性化が期待される。</p> <p>平成23年度から、耐震補強か新庁舎建設について庁内委員会での検討が始まり、25年度に耐震対応と必要最小限の改修を決定し、28年度から2カ年で耐震改修工事を実施。耐震補強は鉄骨ブレースやコンクリート補強壁など景観に配慮するとともに、綿密な執務室の移動計画をたて、コスト削減に繋げておられた。また、同市では一定額以上の工事については、市内業者の参加機会確保の観点から、分離発注方式をとられていることも参考となった。</p>

◇ 行政視察報告書 ◇

《提出者氏名》 平田 聖治

委員会名	新庁舎建設等特別委員会	
委員名	[委員長] 松尾 武治	[委員] 谷尻 昌史
	[副委員長] 平野 清久	[委員] 平田 聖治
	[委員] 西村 好高	[委員] 八木 信樹
	[委員] 鞆岡 誠	[委員] 山下 秋則
	[委員] 木村 裕	
視察先	岐阜県 恵那市	岐阜県 中津川市
視察日	令和元年11月20日(水)	令和元年11月21日(木)
視察時間	午後1時30分～午後3時00分	午前10時00分～午前11時30分
調査事項	・庁舎整備の内容について (恵那市役所 西庁舎)	・庁舎整備の内容について (中津川市役所 耐震改修工事)
行政視察を終えて	<p>●新庁舎建設の背景</p> <p>①第二庁舎の老朽化 第二庁舎は昭和35年に市民会館として建設され、その後、大規模改修を経て庁舎として使用されてきた。しかし、経年による老朽化が著しく、耐震診断の結果によれば補強工事を行ったとしても耐震基準を満たすことが難しい建物であることが判明した。</p> <p>②分散している庁舎の集約 平成16年度の市町村合併以降、庁舎機構の再配置により遠隔地に設置されていた組織を、市民の利便性に配慮し、一帯の建物に集約する必要がある。</p> <p>③来庁者駐車場の確保 かねてより、市役所は慢性的に来庁者用駐車場スペースを確保する必要がある。</p> <p>【西庁舎建設事業費】</p> <p>●総事業費 13億8,565万円(周辺施設解体工事等関連事業費含む) &lt;内訳&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・工事請負費 11億4,644万円</li> <li>・委託料 2,328万円</li> </ul>	<p>●市役所本庁舎耐震改修工事 昭和47年建築の本庁舎は、耐震基準を満たしておらず、防災拠点としての機能確保と行政機能の継続性を確保するため、耐震改修工事が行われた。</p> <p>●検討経緯 平成23年度に庁内検討委員会を設置し、現庁舎を耐震補強して再生すべきか、新庁舎を建設すべきか検討された。機能分散も含めさまざまな角度から意見交換。 平成25年度に財政的な課題、防災的な課題、市民目線での課題、職員から見た場合の課題について整理し、耐震化2案、新庁舎建設1案に絞り検討。政策会議や庁議を重ね、耐震改修する方針を決定した。 平成26年度に安心安全を確保しつつ、必要最小限の改修を計画することとし、改修範囲を絞り込んだ基本設計を策定した。 平成27年度に実施計画を策定し、平成28年度から平成29年度にかけて耐震改修工事を行った。</p> <p>●耐震改修を選択した理由 耐震補強と必要最小限の改修を行えば今</p>

	<p>(設計・管理委託、庁舎サイン等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・備品購入費 4,631万円 (移動書庫、カウンター、カーテン)</li> <li>・公有財産購入費 1億6,450万円 (土地購入)</li> <li>・その他 502万円 (車庫建設、手数料、補償費)</li> </ul> <p>●財源</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・合併特例債 8億1,980万円</li> <li>・地域の元気臨時交付金 3億7,350万円</li> <li>・公共施設整備基金 7,600万円</li> <li>・一般財源 1億8,475万円</li> </ul> <p>●市民からの反響について(休憩スペースの設置)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新庁舎建設の際に各窓口には待合スペースとして長椅子などを設置。</li> <li>・子どもを遊ばせるスペースが欲しいとの要望を受け、本庁舎1階にテレビ、自動販売機を設置し、キッズコーナー、情報公開コーナーを兼ねた休憩スペースを設置した。</li> </ul>	<p>後20年程度使えることや、平成27年度から始まった総合計画の前期事業実施計画(H27~H30)の中で、リニアに伴う新たなまちづくりのための大規模事業が集中すること。また、それに伴って庁舎に対する考え方も変わる可能性があることから耐震改修を選択した。</p> <p>【耐震改修工事】</p> <p>●総事業費 878,270千円</p> <p>&lt;内訳&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本・実施設計費 36,500千円</li> <li>・耐震改修工事・監理費等 841,770千円</li> </ul> <p>●財源</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住宅・建築物安全ストック形成事業補助金、合併特例債、一般財源</li> </ul> <p>●市民対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・工事着工前は、議会、区長会、近隣住民に説明を行った。</li> <li>・施工中は、庁舎各課の位置の移動をホームページ等で周知を行った。</li> <li>・周辺が比較的密集した住宅地でないため近隣からの苦情は特になかった。</li> <li>・市民の中には、位置的に不安があるとか、改修にお金をかけず、新築すべきという意見はあった。</li> </ul>
--	--	--



◇ 行政視察報告書 ◇

《提出者氏名》 八木 信樹

委員会名	新庁舎建設等特別委員会	
委員名	[委員長] 松尾 武治	[委員] 谷尻 昌史
	[副委員長] 平野 清久	[委員] 平田 聖治
	[委員] 西村 好高	[委員] 八木 信樹
	[委員] 鞆岡 誠	[委員] 山下 秋則
	[委員] 木村 裕	
視察先	岐阜県 恵那市	岐阜県 中津川市
視察日	令和元年11月20日(水)	令和元年11月21日(木)
視察時間	午後1時30分～午後3時00分	午前10時00分～午前11時30分
調査事項	・庁舎整備の内容について (恵那市役所 西庁舎)	・庁舎整備の内容について (中津川市役所 耐震改修工事)
行政視察を終えて	<p>恵那市では、老朽化と耐震基準を満たしていない市役所第二庁舎の建て替え時における経緯や、建て替え後の状況を視察しました。</p> <p>第二庁舎建て替えが必要となった経過については、昭和35年に市民会館として建設され、その後改修を経て庁舎として使用してきた。しかし、経年による老朽化と耐震診断の結果によれば補強工事を行ったとしても耐震基準を満たすことが難しい建物であることが判明した。また、数値では、必要なIS値0.75に対し、建物のIS値は0.37と強度不足も示していた。</p> <p>また、平成16年度の市町村合併以降、庁舎機構の再配置を含め、市民の利便性を配慮した一帯の建物に集約していくことが必要なことや市役所では、以前より慢性的な駐車場不足があり、スペースの確保の必要性もあった。上記の理由により建て替えという話に至っている。</p> <p>西庁舎建設事業費については、総事業費13億8565万円と周辺施設解体工事等関連事業費も含んでおり、工事請負費をみると11億4644万円と現在における建材費の高騰時期に比べて建設時期が建材費高騰</p>	<p>中津川市においては、耐震補強とトイレの改修、屋根等の一部改修を実施されたことの結果や状況を視察しました。</p> <p>中津川市の本庁舎は、昭和47年建築された建造物であり、耐震基準においては基準を満たしておらない建物であることから平成23年度に庁舎検討委員会を設置し、現庁舎を耐震補強して再生すべきか、新庁舎を建設すべきかを検討されました。</p> <p>平成25年度には、財政的な課題や防災的な課題、市民目線での課題を踏まえ、耐震化2案、新庁舎建設1案に絞り検討を重ね、耐震改修する方針に決定、平成26年度には、安心安全を確保しつつ、必要最小限の改修を計画することとし、改修範囲を絞り込んだ基本設計をされました。平成27年度には、実施設計を策定して平成28、29年度にかけて耐震改修工事を行われました。</p> <p>耐震改修を選択した理由としては、耐震補強と必要最低限の改修を行えば今後20年程度つかえることや今後控えるリニアに伴う新たなまちづくりのための大規模事業が集中すること、それに伴って庁舎に対する考え方も変わる可能性があることから耐震改修を選択されました。</p>

前に建設されているので価格が安く建設できている。建設時の起債や財源については、合併特例債 8 億 1980 万円、地域の元氣臨時交付金 3 億 7350 万円、公共施設整備基金 7600 万円、一般財源 1 億 8475 万円と市の財源を極力つかうことがないよう有利な起債を使う事で建設費を補っていることがわかる。

庁舎内を視察して見ると 1 階がワンストップサービス窓口を設け、各課がわかる指標をぶらさげることや柱に総務、厚生と区分けることで市民の人にとっては、わかりやすく利用しやすい建物となっている。

また、市民が 2 階の保健センターに来られた時、子供達を待たせておく遊び場や休憩場が必要との市民要望により新たに設置がされている。

また、施設には、防災機能をそなえた施設となっており、4階の会議室では、普段、各会議室が間切りをされているだけで非常時には、3つの会議室の間切りを開ける事によりひとつの大会議室となり、そこで防災会議をおこなえるようにしている。そして非常電話も新たに設置されており、さらには、屋上には発電機と太陽光発電を設置して非常時にも対応できるよう防災機能を充実させている。

また、建物自体にはタイルを使用する事により腐食を減し、長期の老朽化を防ぐ対策を施すなど実施設計込 3 年で建築されている。本市でも、市民の利用ができやすいようワンストップ窓口や待合室、相談室等も検討する事や近年の自然災害に対する防災対策機能も考えていく必要がある。

また、市民の利便性が悪くならないよう、必要な駐車場の確保や道路整備も含め検討していく必要がある。

改修については、屋根改修、トイレ改修、議場改修、市民ホール改修、公室・3 階応接室・4 階大会議室改修・窓改修・電話交換機更新・防犯カメラを設置されました。特にトイレは洋式化にされ、2 階には多目的トイレを設置したことや喫煙室を市民談話室に改修して市民の利便性についても考えておられた事。さらに、安全面では、1, 2 階の鉄骨ブレース補強する窓を新設更新されたことや、1 階執務室に 3 か所防犯カメラを新たに設置して安全性を高められておりました。

本庁舎耐震改修工事では、総事業費約 8 億 7827 万円とやはり、こちらも現在における建材費の高騰時期に比べて、建設時期が建材費高騰前であり、価格が安く建設できている。財源については、国の補助金約 2 億円、合併特例債 6 億 2260 万円、一般財源約 5442 万円となっており、今後本市においても上記を参考にして耐震するときに必要なこと、市民への工事の周知や安全面また、長寿命化も含めて改修する所ときには、先を見て今、改修をしっかりとしておく事で今後の補修等を減らしていく事ができる。

今回の視察により、耐震と改修についても、今後を見据えた議論をさらにしていく事が必要と感じました。

◇ 行政視察報告書 ◇

《提出者氏名》 山下 秋則

委員会名	新庁舎建設等特別委員会	
委員名	[委員長] 松尾 武治	[委員] 谷尻 昌史
	[副委員長] 平野 清久	[委員] 平田 聖治
	[委員] 西村 好高	[委員] 八木 信樹
	[委員] 鞆岡 誠	[委員] 山下 秋則
	[委員] 木村 裕	
視察先	岐阜県 恵那市	岐阜県 中津川市
視察日	令和元年11月20日(水)	令和元年11月21日(木)
視察時間	午後1時30分～午後3時00分	午前10時00分～午前11時30分
調査事項	・庁舎整備の内容について (恵那市役所 西庁舎)	・庁舎整備の内容について (中津川市役所 耐震改修工事)
行政視察を終えて	<p>1. 整備の背景</p> <p>人口約5万人。平成16年に1市4町1村が合併して現在の恵那市になった。</p> <p>平成18年から、老朽化した市役所第2庁舎(旧恵那市役所庁舎。昭和35年市民会館として建設されたものを庁舎として活用)の建替えなどを検討されてきたが、東日本大震災を機に、耐震不足(IS値 0.37)の当該庁舎の建替えが急務となった。</p> <p>また、合併で周辺施設に分散されていた部署を一つの施設に集約するとともに、慢性的な来庁者の駐車場の解消など、市民の利便性の向上を図る必要があった。</p> <p>そのため、市総合計画後期計画に「市役所第2庁舎(西庁舎)建替事業」を掲げ、急ピッチで進められた。</p> <p>2. 整備概要</p> <p>工事は平成25年10月～26年10月の1年間で完成し、11月から新庁舎(西庁舎)で業務開始。鉄骨造4階建、延床面積約3600㎡で、総事業費は13億8565万円(周辺施設解体工事等を含む。本体の建物は約9億8600万円)。</p> <p>財源は、合併特例債(有利な起債)約8</p>	<p>1. 整備の背景</p> <p>人口約8万人。平成17年に3町4村を編入して現在の中津川市になった。</p> <p>平成23年度から、現庁舎(昭和47年築、鉄筋コンクリート造、5階建て、延床面積約5800㎡、IS値 0.45～0.69)の耐震補強か、新庁舎の建設かについて庁内検討委員会で検討開始。25年度に財政的、防災面、市民の利便性などの観点から整理し、耐震化2案、新庁舎建設1案に絞り、26年度に、安心安全の確保(耐震対応)と、必要最小限の改修とする案に決定。28年度・29年度の2か年で実施された。</p> <p>耐震対応と最小限の改修とした理由は、施工すればまだ20年程度使用可能であるとされたこと、リニア新幹線の計画があり、そのための大規模事業が集中することなどから、財政的に費用が最も少ない耐震改修を選択された。</p> <p>2. 整備概要</p> <p>工期は平成28年8月～30年2月までの役1年半。総事業費は約8億7800万円。財源は、国の補助金約2億円、合併特例債約6億2300万円、一般財源約5400万円</p>

億2千万円、一般財源約1億8500万円など。

西庁舎は本庁舎（4階建て）に隣接する駐車場に建てられ、1階から3階は各階に通路を設けて行き来を可能とされた。（建築確認等の観点から4階には設けず）

老朽化した従前の第2庁舎と隣接していた保健センターは取壊し、跡地を駐車場として活用。

西庁舎の1階は、市民福祉部、2階は、健康推進課、保健センターなどで、3階は経済部、4階は教育委員会などとなっている。

### 3. 所感

従前の第2庁舎や保健センターの解体費、設計・管理費など関連費用含めた総事業約14億円には、視察した委員、異口同音に、その安さに驚いたところである。建設資材の高騰や建設作業員不足などが言われる現在より5年程前のことであるが、検討案として示されている現在の本市の整備案について、視察した内容を基に、十分な検討が必要と感じた。

など。

耐震工事の特徴として、庁舎で業務をしながら施行するとされたため、課等の執務場所を月ごとに移動するなどの措置が必要であったこと。そのために工事の綿密な工程管理・打合せを行い、業務に支障の出ないようにするとともに、市民にも広報で情報提供や理解を求められた。

なお、仮庁舎を設け、そこで業務をすれば、工期の短縮ができ、執務場所の移動も必要ないが、一度切りのものに数千万円もの費用を充てることは財政面で難しいため、職員の苦勞と市民の理解で乗り切ったとのことであった。

### 3. 所感

改修工事は、耐震補強が大部分で、他はトイレの洋式化（1階～5階すべて）ぐらい。「電気関係など手を入れていない」とのことであり、財政面を考慮し、本当の最小限に収められたとのことである。

市民の中には「新築すべき」との意見もあったようであるが、リニア駅の開設でまちがどのように変わっていくのか、不確定な要素がある中では、お金を掛けずに新築よりも当面の対応を選択されたとも考える。

業務を継続しながらの施工には、工事業者、設計監理者だけでなく、市役所にも経験と知識をもった職員が必要と考える。中津川市には担当者含め4名の1級建築士の資格を持った職員がおられるとのこと。本市での課題と考える。